



適応策の意義・必要性（素案）

✓ 埼玉県として適応に取り組む背景・意義

背景

- 今後も温暖化傾向は続き、影響は不可避 ⇒ **賢い対応が必要**
- 日本全体で人口減少や超高齢化の進展 ⇒ **地域の防災力の低下などリスクに対する適応能力への懸念**

意義

- 温暖化影響への適応は、**地域におけるリスクマネジメント**という視点で、県民の安全・安心・健康、財産を守るため、**総合的・計画的**に取り組むことが不可欠
- 温暖化の影響は、気候、地形、文化などにより大きく異なるため、自治体が主役となって、**地域特性に応じて創意工夫を凝らした適応策**を進めていくことが必要
- 本県では、西部から東部にかけて山間部・丘陵部・低地が広がり、大雨による土砂災害や洪水に対する脆弱性が想定される。また、東京隣接地域等では熱中症に対する脆弱性が想定される。

✓ 埼玉県で温暖化影響の可能性のある現象

分野	主な内容
気象・災害	● 短時間大雨(ゲリラ豪雨)の増加
自然環境	● 南方系生物の侵入定着(ムラサキツバメ) ● シカの増加とそれに伴う植生変化 ● サクラ開花日など生物季節の変化
農業	● 水稻高温障害の増加(白未熟粒の発生) ● 雑草発生の早期化 ● 南方系昆虫の害虫化(ツマグロヒョウモン) ● 光化学オキシダントによる軟弱野菜への被害の発生 ● 酪農乳量の減少と乳質の低下
健康	● 光化学オキシダント濃度の上昇 ● 熱中症患者の増加 ● スギ花粉飛散量の増加



国の適応計画の策定

中央環境審議会地球環境部会にて気候変動影響評価等小委員会を設置
(平成25年7月2日)



- ・極端現象を見るためのより詳細な日本の気候変動の予測
- ・気候変動が日本にあたる影響の評価
- ・それらの結果を踏まえたリスク情報の分析 等

気候変動の影響及びリスク評価と今後の課題を整理し、意見具申として取りまとめ(平成27年2月頃)



- ・政府全体で短期的(~10年)、中期的(10~30年)、長期的(30~100年)に適応策を重点的に講ずべき分野・課題を抽出
- ・各省における検討

政府全体の総合的、計画的な取組として、適応計画を策定
(平成27年夏頃目処) ※定期的な見直し(5年程度を目処)



埼玉県の適応策検討に向けた取組

✓ 埼玉県地球温暖化対策推進条例(平成21年3月31日)での位置づけ

第8条(県の地球温暖化対策)
県は、次に掲げる事項に関する地球温暖化対策を実施するものとする。
(中略)
十四 前各号に掲げるもののほか、地球温暖化の防止及び地球温暖化への適応に関すること。

✓ 現ナビゲーションでの位置付け

第7章 地球温暖化への適応策等：基本的な考え方や今後の課題を整理

✓ 埼玉県地球温暖化対策推進委員会 適応策専門部会作業部会

- 庁内向け有識者による講演会
- 農林部と環境部による検討会
- 関連する既存施策の把握・整理
- 対応の方向性の検討

✓ 九都県市首脳会議環境問題対策委員会における取組

- 有識者や研究者による研究会・先進事例報告会
- 具体的事例をテーマに関係部局職員と合同のワークショップ



埼玉県の温暖化影響予測

✓ 今世紀末の温暖化影響予測

気温

- 20世紀末比平均2.0℃～4.8℃上昇（別紙参照）

農業

- 現状に比べコシヒカリの平均収量が県全体で約8%減少
- 但し、地域により減少率は異なり増加する場所もある

森林・生態系

- ブナの分布域が約80%減少

出典：環境省環境研究総合推進費 S-8共通シナリオ



埼玉県の適応策の進め方（素案）

モニタリング

- 温暖化実態・影響の把握
- 県研究機関を中心に情報収集

影響の予測

- 国・大学等による予測情報の収集・整理
- 県研究機関を中心に予測実施

情報の共有

- 環境部を中心に全庁的な情報共有

適応策の検討・実施

- 環境部をはじめ関係部局連携による検討
- 施策の総合化・体系化

実施状況の把握

- 適応策実施・進捗状況の把握

順応的管理

実施 段階的な対策



埼玉県の気候変動影響に関連する既存施策等

分野	影響項目	関連する既存施策（計画・事業名等）
気象・災害	大雨による河川の氾濫、流域の浸水による被害	<ul style="list-style-type: none"> 見沼田圃保全・活用・創造推進事業 総合的な治水対策の強化・推進 河川の防災情報の積極的な発信、洪水ハザードマップの活用
	集中豪雨等に伴う内水による浸水被害	<ul style="list-style-type: none"> 内水ハザードマップ作成の促進 公共下水道（雨水）の整備促進 さいたま減災プロジェクト
	大雨による土砂災害リスクの増加	<ul style="list-style-type: none"> 土砂災害防止対策の推進
	大雨による土砂崩れや土石流等発生リスクの増加	<ul style="list-style-type: none"> 埼玉地域森林計画 治山事業
	大雨による道路災害（道路利用者等への危険度）の増加	<ul style="list-style-type: none"> 山間部における県管理道路の通行規制
	異常気象（台風の強大化、短時間大雨等）による被害	<ul style="list-style-type: none"> 地域防災計画
	渇水に伴う給水制限、断水のリスクの増加	<ul style="list-style-type: none"> 埼玉県長期水需給の見通し 節水型社会構築のための普及・啓発
自然生態系	ヒートアイランド現象の進行	<ul style="list-style-type: none"> 身近なみどり重点創出事業費 地域制緑地の指定 公有地化の推進 ふるさとの緑の景観地の維持・拡大
	温暖化に伴う野生動植物への影響	<ul style="list-style-type: none"> 生物多様性保全県戦略 県版レッドデータブック 希少野生生物保護事業 野生生物保護事業
農業	農作物の高温障害等の増加	<ul style="list-style-type: none"> 高温障害等温暖化対応緊急対策研究事業
健康	光化学オキシダント高濃度（光化学スモッグ注意報等の発令）の増加	<ul style="list-style-type: none"> 光化学オキシダント対策 埼玉県大気汚染緊急時対策要綱（オキシダント）
	熱中症の増加、熱中症による死亡の増加	<ul style="list-style-type: none"> 熱中症予防対策
	感染症媒介生物等の分布拡大	<ul style="list-style-type: none"> 感染症流行予測調査等 媒介動物の防除に係る普及啓発事業

✓ 今世紀末の本県の気温上昇予測

表 県平均気温上昇(MIROC5)

RCPシナリオ	1981-2000年の平均(基準年)	2031-2050年の平均	2081-2100年の平均	基準年に対する上昇 2031-2050年	基準年に対する上昇 2081-2100年
RCP2.6	12.8℃	14.7℃	14.8℃	1.9℃	2.0℃
RCP4.5	12.8℃	14.6℃	15.5℃	1.8℃	2.7℃
RCP8.5	12.8℃	14.9℃	17.6℃	2.1℃	4.8℃

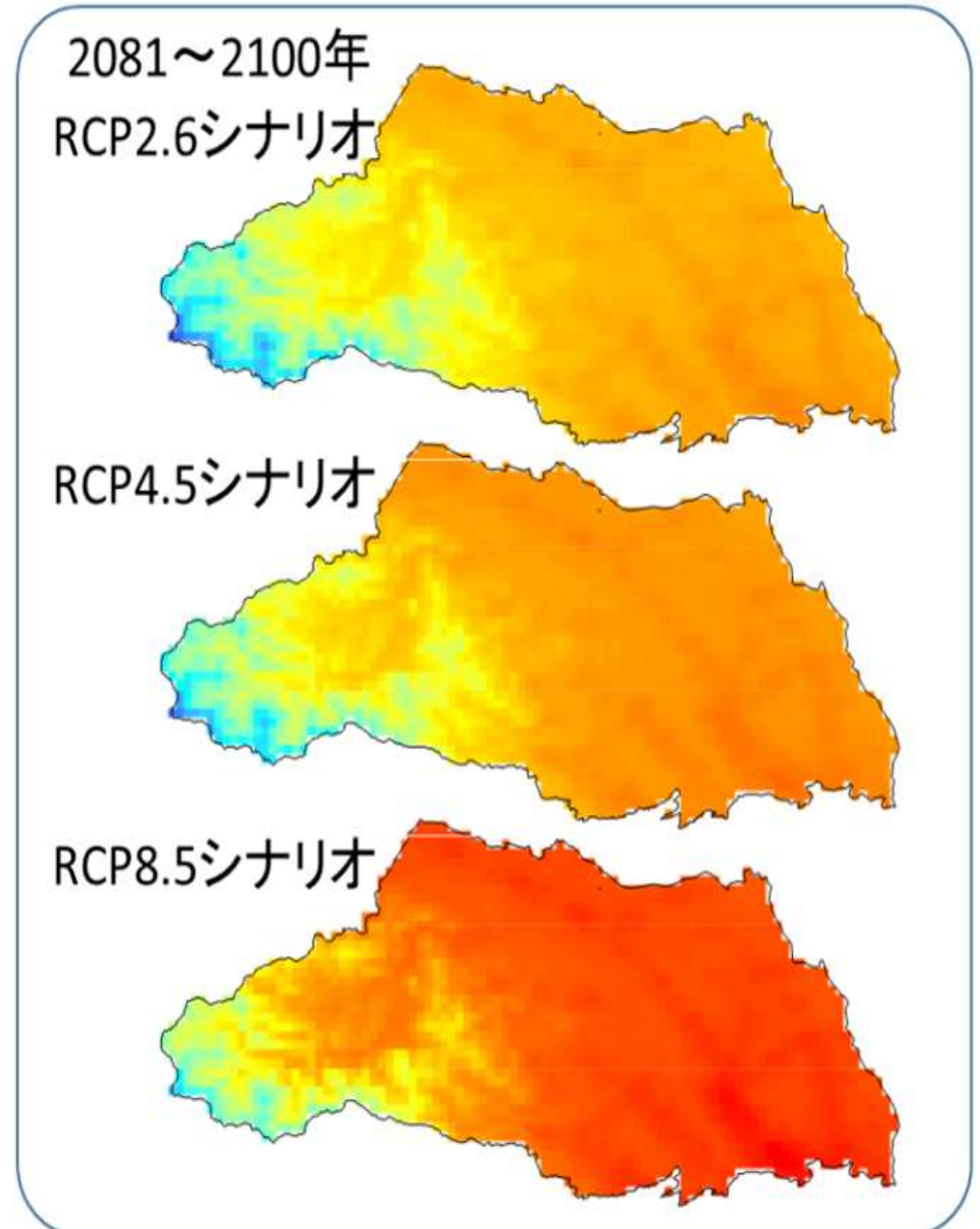
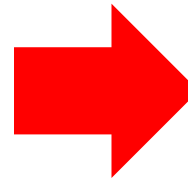
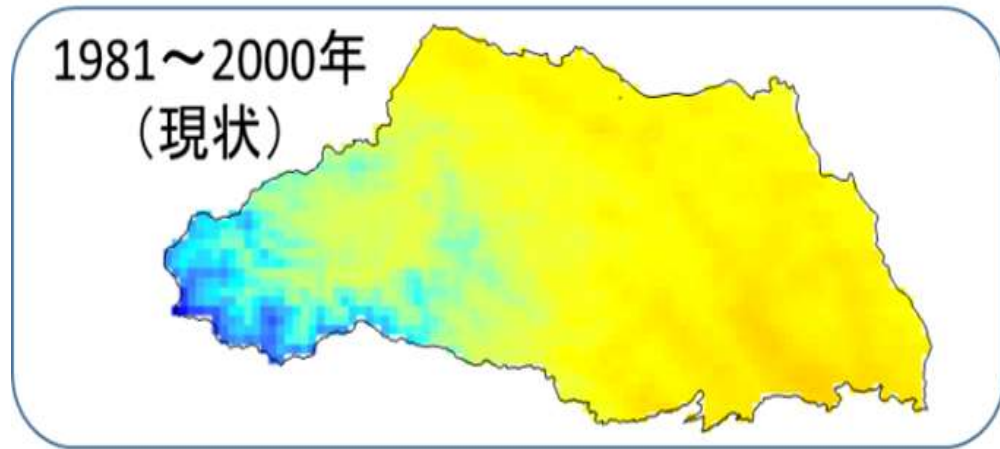


図 県内平均気温の変化(MIROC5)

出典: 環境省環境研究総合推進費 S-8共通シナリオ